

## 2-3. 安全・安心

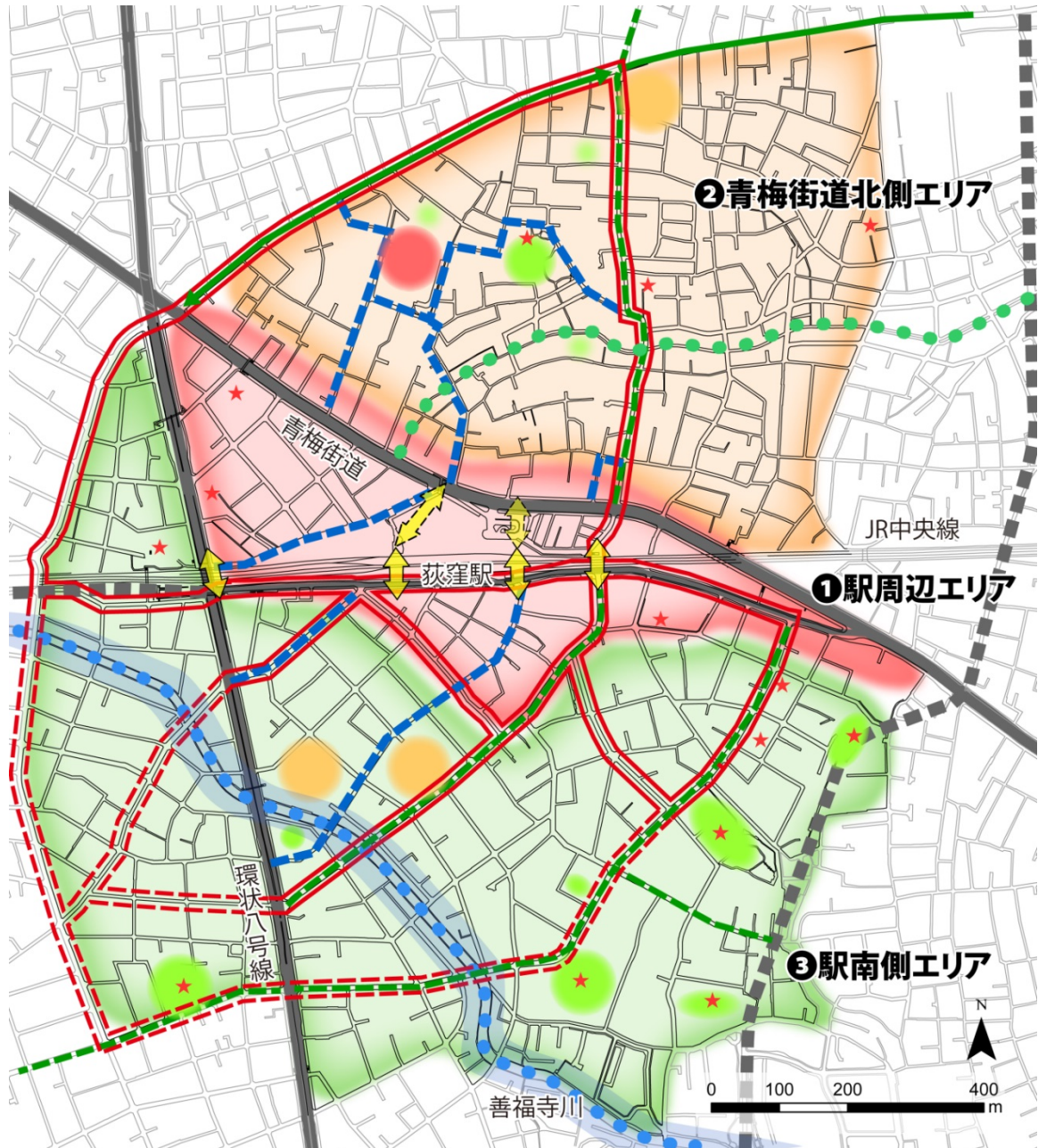
### (1) 安全・安心な道路空間

#### 1) 道路整備

##### 関連計画「すぎなみの道づくり（道路整備方針）（平成 29 年 3 月）」

- 「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」は、杉並区まちづくり基本方針の道路・交通体系整備方針のうち、「体系的な道路網の整備」を具体化する計画です。
- 「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき、将来の道路網の実現に向けて、道路を効率的に整備するために優先的に整備する路線を選定し、選択と集中により道路整備を進めていくこととしています。日大二高通りは、現況の幅員において早期に安全対策行う「安全対策路線」、中長期的に道路拡幅を進める「優先整備路線」の両方に位置づけられています。

- ・ 「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）（平成 28 年 3 月）」において、都市計画道路の優先整備路線に選定された路線は、区域内にはありません。
- ・ 主要生活道路の優先整備路線は、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」の計画期間内（平成 29 年度から平成 37 年度まで）に事業着手を目指します。（図 38）
- ・ 主要生活道路のうち、事故が多い路線及び安全対策の必要性が高い路線を選定した「安全対策路線」については、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」の計画期間内（平成 29 年度から平成 37 年度まで）に対策実施を目指します。（図 38）
- ・ 荻窪駅周辺では、歩道が設置されている道路は、幹線道路以外では、駅南側エリアの数路線に限られます。（図 39）
- ・ 青梅街道北側エリアにおいては、幅員 4 m 未満の道路が特に多い状況です。（図 40）



※1 「自転車ネットワーク路線」:

「杉並区自転車ネットワーク計画」に基づく、路面標示などにより安全な自転車通行空間を連続的に整備する路線

※2 「みどりと水のプロムナード軸」:

みどりの拠点や駅などの拠点を結ぶ遊歩道

※3 「水とみどりの景観形成重点地区」:

「杉並区景観計画」に基づく、水とみどりを一体的に連続させ、季節感と潤い及び地域の歴史が感じられる景観形成を図る地区

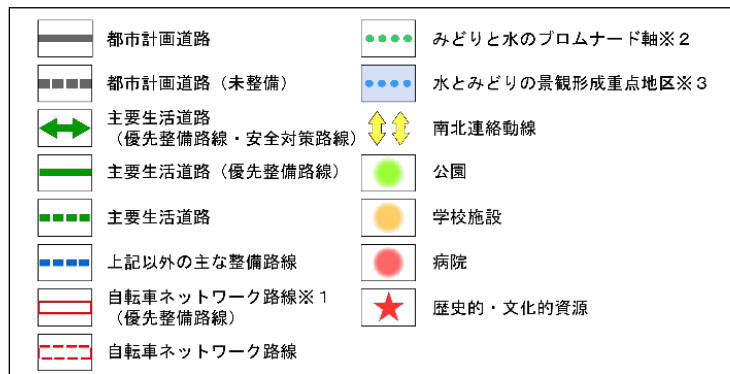


図 38 : 荻窪駅周辺まちづくり方針における取組の方向性

【出典】: 『荻窪駅周辺まちづくり方針』(平成 29 年 4 月、杉並区)

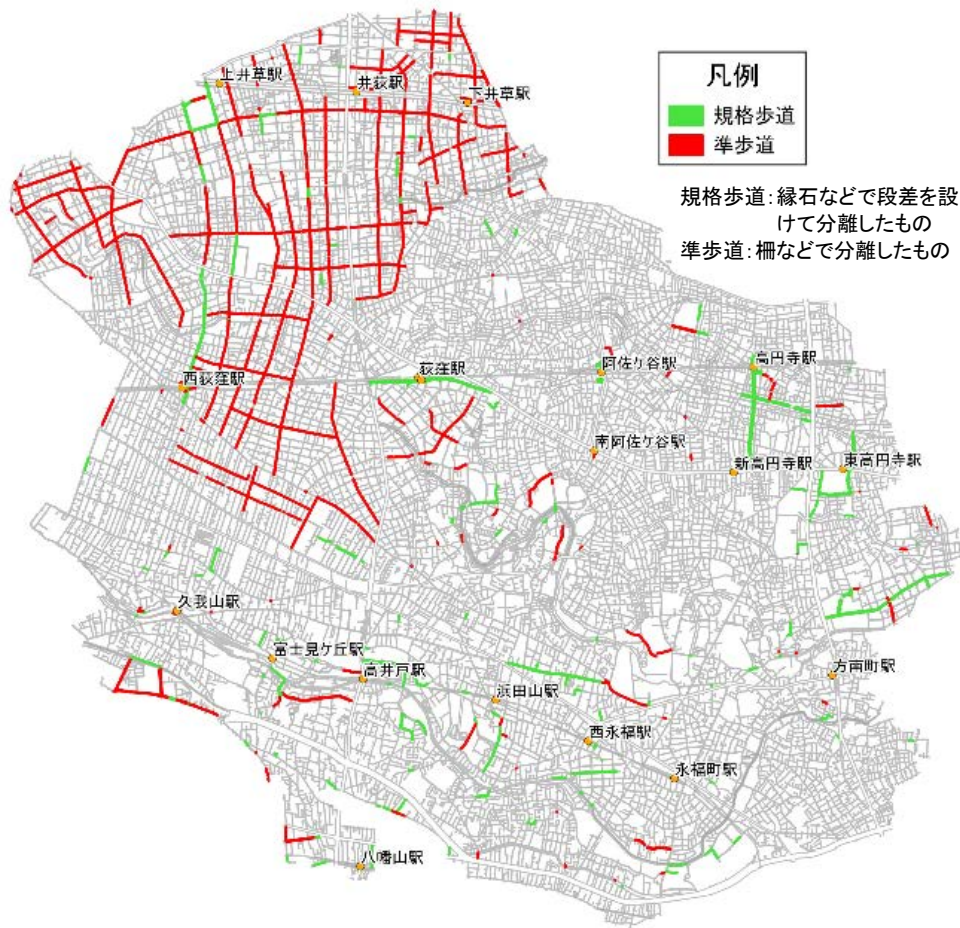


図 39 : 歩道設置箇所図 (区道)

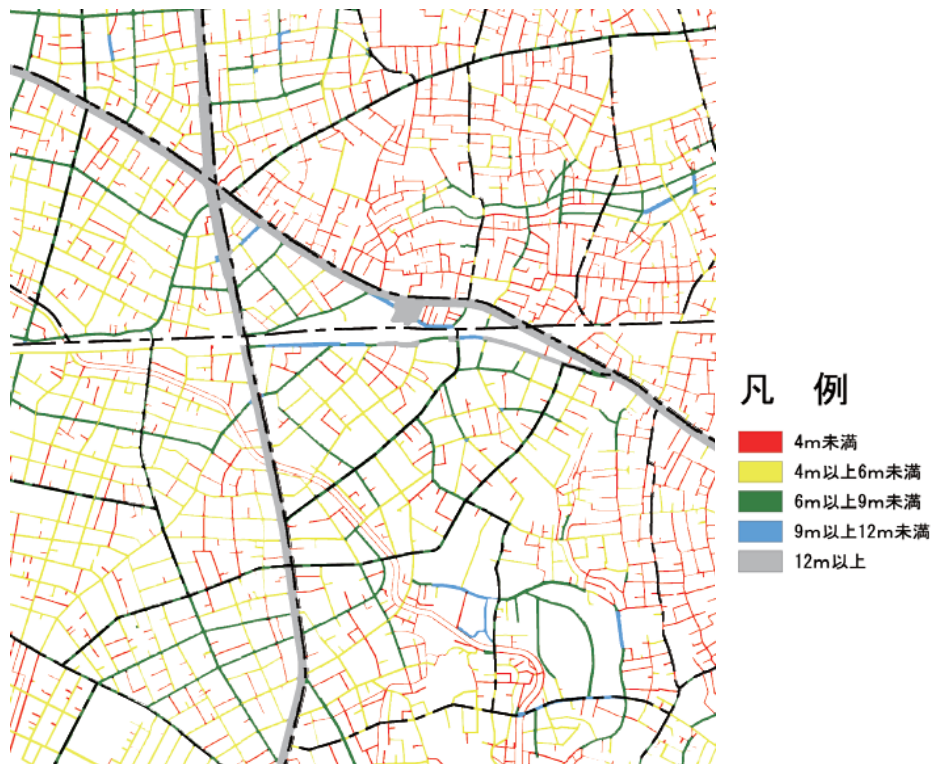


図 40 : 道路幅員ランク図

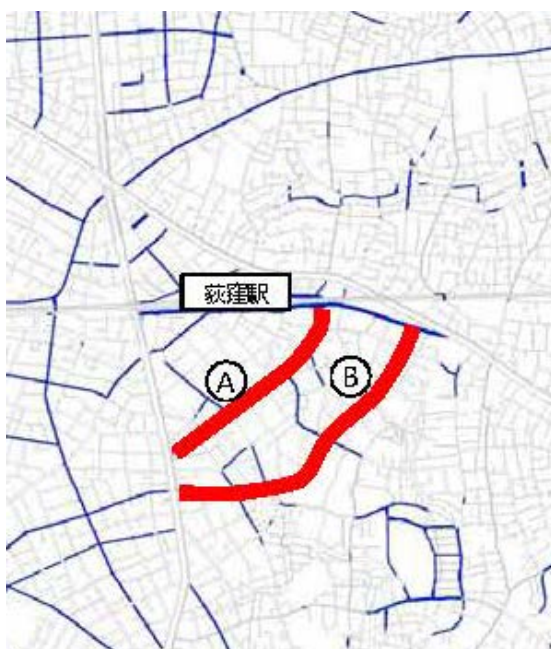
【出典】: 『すぎなみの道づくり (道路整備方針)』 (平成 29 年 3 月、杉並区)

## 2) 無電柱化

### 関連計画「杉並区無電柱化推進方針（平成 29 年 11 月）」

- 「杉並区無電柱化推進方針」は、杉並区において無電柱化整備を計画的に進めるため、整備手法の検討や、整備効果の高い路線の選定を行ったものです。
- 生活道路における整備効果の高い路線は、4 路線選定されており、そのうちの 2 路線は、荻窪駅周辺の路線です（本戦略の対象区域内、図 41）。
- 上記 4 路線のうち、優先的に着手する路線（1 路線）を早期に選定するとしています。

- ・荻窪駅周辺では、青梅街道（アーケード部分除く）、白山通り、駅前南口通りは無電柱化されています。
- ・区内における区道の無電柱化整備率は約 1%となっていますが、区では、平成 29 年 11 月に策定した「杉並区無電柱化推進方針」に基づき、今後無電柱化を進めていきます。荻窪駅周辺においても、2 路線選定されている整備効果の高い路線をはじめとして、駅周辺における無電柱化の調査・検討を進めます。（図 41、表 11）



	路線名	延長
Ⓐ	区道 2096-1 号 (環状 8 号線～補助 131 号線)	680m
Ⓑ	区道 2131 号 (環状 8 号線～補助 131 号線)	990m

図 41：荻窪駅周辺における無電柱化による整備効果が高い路線

【出典】：『杉並区無電柱化推進方針』（平成 29 年 11 月、杉並区）

種別	道路延長	無電柱化率
国道・都道	2,450km	約 27%
市区町村道	21,406km	約 2%
(うち杉並区道)	(約 622km)	(約 1%)
計	23,856km	

表 11：東京都内の無電柱化率（平成 29 年 4 月時点）

【出典】：『杉並区無電柱化推進方針』（平成 29 年 11 月、杉並区）

### 3) 交通

- ・ 幹線道路だけでなく、荻窪駅周辺においても歩行者等と自転車・自動車との交錯が見られ、広範囲で事故が発生しています。(図 42、写真 17)
- ・ 幹線道路の青梅街道・環状 8 号線は、通過交通も多く、事故発生が多くなっています。(図 42、写真 18)
- ・ 青梅街道と補助 131 号線（南口駅前通り）において、歩行者（通勤、通学の若年、中年層）の乱横断（歩行者が横断歩道以外の箇所で道路を横断すること）が多く見られます。
- ・ 工事用車両や荷捌き車両の駐停車により、幹線道路において渋滞が発生しています。
- ・ ナビライン等の自転車通行空間上に駐停車された車両を避けるために、車道走行している自転車が、自動車と接触しそうな状況が見られます。(写真 19)

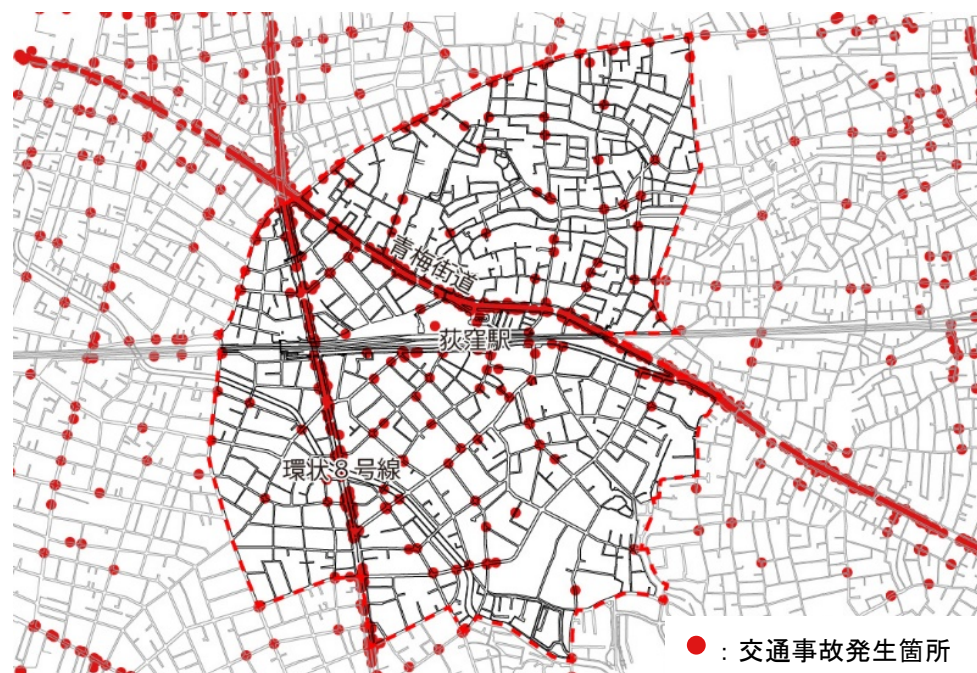


図 42 : 交通事故発生状況 (平成 24~28 年)



写真17 : 自動車と歩行者の交錯



写真18 : 青梅街道の車両通行状況



写真19 : ナビライン上に停車する業務車両

## (2) 安全な自転車利用

### 関連計画「杉並区自転車ネットワーク計画（平成 29 年 3 月）」

- 「杉並区自転車ネットワーク計画」は、区内にある国道・都道、隣接自治体の道路との連続性を確保しながら、安全で快適な自転車通行空間の整備を進めるための計画です。
- 「杉並区自転車ネットワーク計画」では、「車道を通行する自転車の安全と歩道を通行する歩行者の安全の双方を確保します。」ということを基本方針としています。
- 上記基本方針の達成に向け、自転車ネットワーク路線、そのうち平成 33（2021）年度までの整備を目指す優先整備路線、及び、交通状況を踏まえた整備形態の考え方を定めています。

#### 1) 事故発生状況

- ・ 荻窪警察署管内では、交通事故の自転車関与率が約 6 割を占め、都内平均より約 1 割高い状況です。(図 43)
- ・ 荻窪警察署管内の自転車関与事故件数は、他警察署、区平均より高くなっています。(図 43)

#### 2) 自転車の利用状況

- ・ 歩道通行時のルールが守られていない状況が多く見られます。(写真 20)
- ・ 生活道路等を、スピードを緩めず、歩行者の間をすり抜けて走る自転車が多く見られません。(写真 21)

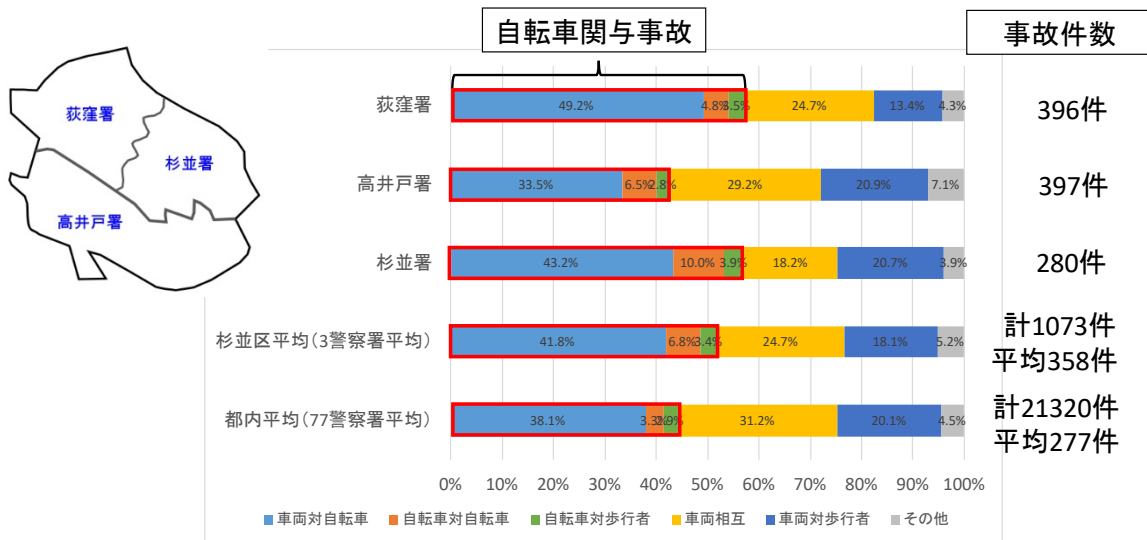


図 43 : 全事故の当事者別関与状況

【出典】：『杉並区自転車ネットワーク計画』（平成 29 年 3 月）



写真20 : 自転車の歩道通行状況



写真21 : 歩行者と自転車の交錯が見られる狭い商店街

### (3) ターミナル駅としての安全・安心

#### 1) ホームドア

- ・東京メトロ丸ノ内線については、ホームドアの整備が完了しています。
- ・JR東日本では、2032年度末頃までに、東京圏在来線の主要路線全駅（整備済みの32駅を含む330駅）にホームドアを整備していくこととしています。このうち、荻窪駅については、中央快速線では2020年度第2四半期以降から2025年度末までに、また、中央・総武緩行線では2032年度末頃までに、それぞれホームドアの整備が予定されています。

#### 2) 災害時の対応

- ・「災害時に来街者の一時滞留空間となるような広場・オープンスペースが不足している状況」との意見があります。
- ・鉄道事業者の対応は以下のとおりです。

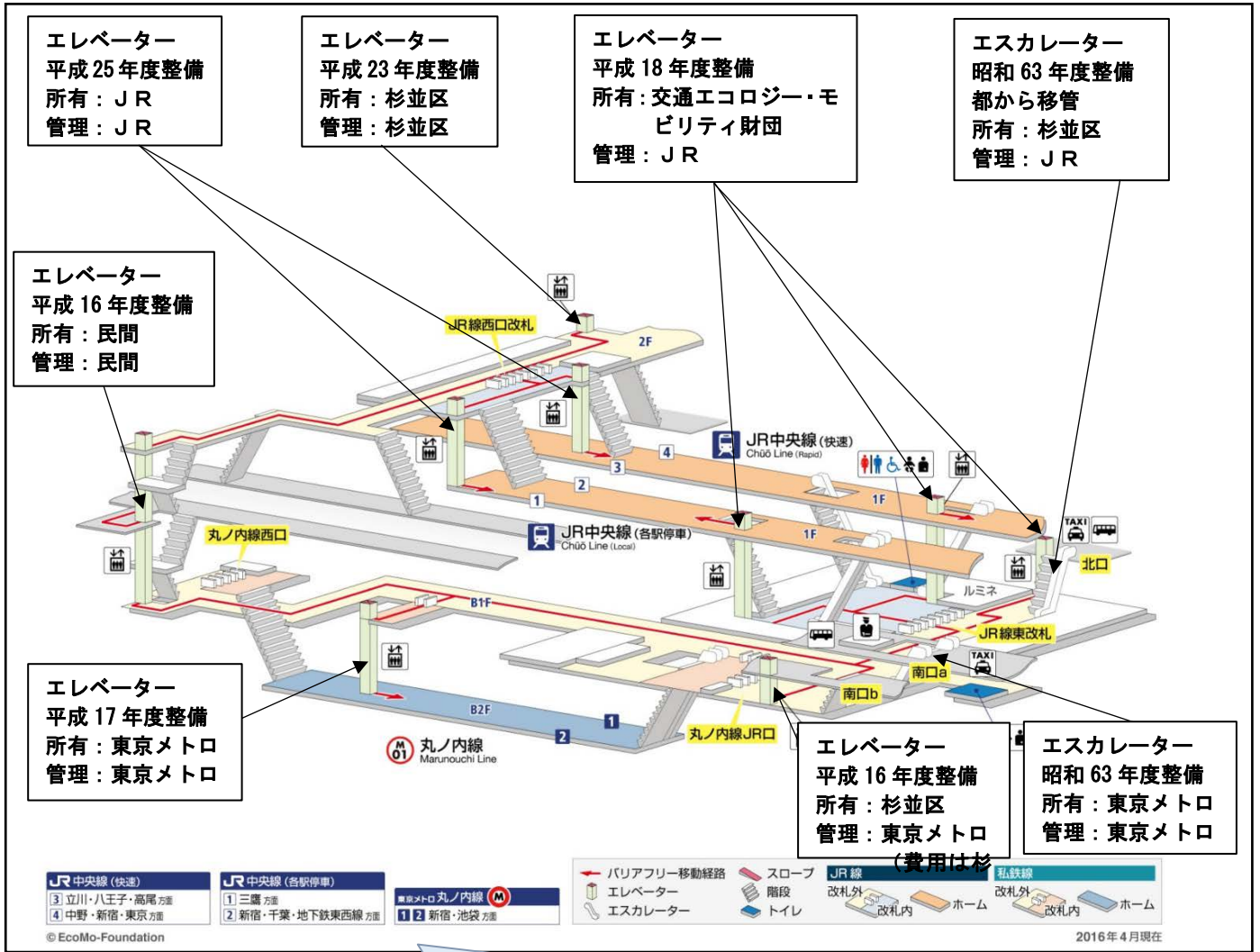
「鉄道の復旧を最優先にしつつ、駅構内の安全確認の結果を踏まえたうえで、一時的な滞在場所として、『一時滞在場所』（行政機関が指定する『一時滞在施設』へ移動するまでの一時的な利用者の滞在場所）を案内する。」

「災害時、駅外部の状況が把握できるまで、原則として駅構内の旅客を、構内で最も安全と思われる一定の箇所にとどめる。地下より地上が安全であると認めたときは、あらかじめ指定された広域避難場所を旅客に周知し、その方向の出入口に誘導する。地上より地下が安全であると認めたときは、構内で最も安全と思われる場所であり、かつ、地上への緊急避難に有効な場所を選んで、誘導する。その後、地上の安全が確認された場合、あらかじめ指定された広域避難場所の方向の出入口に誘導する。」

#### コラム：中央快速線等へのグリーン車サービス開始時期について

- ・JR東日本では、中央快速線等へのグリーン車サービスについて、2023年度末のサービス開始を予定しています。
- ・2023年度末のサービス開始に向け、グリーン車運行区間の全44駅及び車両基地等において、運行に必要な駅改良工事や線路改良・信号改良工事等を実施予定です。





●東口改札前地下通路、西口連絡橋通路及び駅構内においては、移動等円滑化経路整備（エレベーター設置等）によるバリアフリー化が完了しています。更に、車いす使用者用トイレや音響式案内整備によるバリアフリー化も完了しています。

図 44：荻窪駅構内バリアフリー整備状況図

【出典】：『らくらくおでかけネット』（交通エコロジー・モビリティ財団）

## コラム：防災訓練について

- ・東日本大震災の際の教訓を踏まえ、平成 25 年 7 月に鉄道事業者、駅周辺の事業者及び地域関係者等が構成員となり設置された「荻窪駅前滞留者対策連絡会」と区が中心となって、帰宅困難者の発生を想定した訓練の実施などに取り組んでいます。



写真22：「荻窪駅前滞留者対策連絡会」の訓練の様子